

## いまそこにある危機——混迷のグローバル時代を生き抜くための視座

～わたしたちは、ホモ・サピエンスは、どこへ向かうのか～

2017年12月20日

@日本記者クラブホール

医療介護福祉政策研究フォーラム

国際医療福祉大学大学院特任教授

木村 伊量

### I 小さくなる地球 劇的に変化する21世紀の「グローバル・ビッグバン」

5万年から7年前にアフリカを出たホモ・サピエンスが世界に散らばって以来のグローバル化の波／ 史上初の「グローバル国家」？ モンゴル帝国／ コロンブスやマゼランが切りひらいた新世界の光と影 「見えざる殺人者」の侵入／ 「近代世界システム」のもとで、均質な商業市場が無限に拡大／ 米マサチューセッツ州の発明家モールの通信機が打ち出した「神がつくり給いしもの」／ 地球を小さくする通信・情報・交通革命／ 世界の富が集まる19世紀のロンドン どん底の貧困にあえぐ『荒涼館』の文豪ディケンズ 華やかなショーウインドーを覗き込むマルクスの嘆息／ 英国の社会学者ギデンズ 空間と時間の断片化「脱・埋め込み」(de-embeddedness)／ 文化的な差異が最少化する世界／ グリニッジ標準時とグローバル基準／ 1970年 ジャンボジェット機就航／ 「ニクソン・ショック」とオイルダラーがつくりあげた巨大な国際金融市場／ とめどなく暴走するIT・カジノ資本主義／ 世界で最も裕福な8人の資産総額は、世界の総人口の下半分36億人の資産総額と同じ 世界の分断 変容する「南北問題」／ パナマ文書とパラダイス文書が告発する「恥ナキ者が富ム」(莊子)世界／ 情報とウイルスが瞬時に世界をかけめぐり 未知のパンデミックの脅威にさらされる人類

### II 人類は進歩してきたのか 進化とは何か

ゴーギャンの「私たちはどこから来たのか 私たちは何者か 私たちはどこへ行くのか」(1897～98 タヒチで製作)／ ポーリーアンナ(進歩肯定派・楽天派) vs カッサンドラ(進歩懐疑派・悲観派)／ 福澤諭吉と夏目漱石／ 「合理主義の父」と呼ばれる古代ギリシャの哲学者パルメニデスに始まる理性への信仰／ 「魔術から解放された」科学革命と啓蒙の時代が花開く デカルト、ホッブズ、ニュートンらによる機械論的世界観／ ノーベル賞経済学者アマルティア・センのいう「合理的な愚か者」(Rational Fool)

／ ダーウィンの「進化論」の衝撃と、その忠実な伝道者ドーキンス／ 「進化論」に異を唱えた動物生態学者ファーブル、今西錦司／ 近代の理性と啓蒙主義への反発 逆流する理性 ファシズムの狂気／ 哲人ソクラテスの死とポピュリズム／ 「人がみな 同じ方角に向いて行く。それを横より見てゐる心。」(石川啄木『一握の砂』より)／ 9000年前のアルゼンチンの「(多くの)手の洞窟」(クエバ・デ・ラス・manos)と、20世紀末のルワンダの大虐殺で犠牲になった子どもたちの頭骸骨——2枚の写真がわたしたち人類に語りかけるものとは

### III サピエンスがサピエンスを超える日

IBM「ディープブルー」と「ワトソン」の衝撃／ 米国のレイ・カーツワイル氏(グーグルの幹部)の予測 「2029年までには、コンピュータは人間の知能を超える(2045年の予測を繰り上げ)／ キューブリック監督の不朽の名作『2001年宇宙の旅』に登場する人工知能「HAL9000」／ AIなどの情報技術は「指数関数的」にかつてない超高速度で進化していく 「技術的特異点」(シンギュラリティ= singularity)は来るのか／ AIが人類にもたらすさまざまな福音／ 一方で、英国の宇宙物理学者ホーキング博士らの警告 「完全な人工知能が開発できたら、それは人類の終焉を意味するかもしれない」／ 生物学はいまや情報工学の世界 「バイオインフォマティクス=生命情報科学」(bioinformatics)という新領域の誕生／ 最先端技術「クリスパー」(CRISPR)による自在なゲノム編集／ 中国のバイオテクノロジー企業・ボヤライフ社 「人間のクローンをつくる準備は整っている」／ 秦の始皇帝が追い求めた「不老不死」の夢／ サッカーのスーパースター・ロナウド選手とデザイナーベイビー 「リベラル優生学」の誘惑／ ゲノム編集による「肉体改造の自由」は、「言論の自由」と同様に認められるべきか／ 人間とは ヒトとは 生命とは 近代の「人間中心主義」(ヒューマニズム)という価値が根底から揺さぶられる現代／ 「神なき時代」を生き続ける人間 パスカルの「無限の空間の永遠の沈黙へのおののき」／ 聖なるものが消え果てた世界で、人はなお尊厳をもって生きられるか ポスト・ヒューマン時代にしのびよる新たなニヒリズム／ 人間圏と生命圏平等主義が問いかけるもの